

2006年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、グリーンランド付近と北太平洋北東部に正偏差が見られ、それに対応するリッジと、北米東部のトラフが明瞭だった。北米から北大西洋の中緯度帯は概ね負偏差に覆われた。一方、東半球側では高緯度で負偏差、中緯度で正偏差が卓越した。

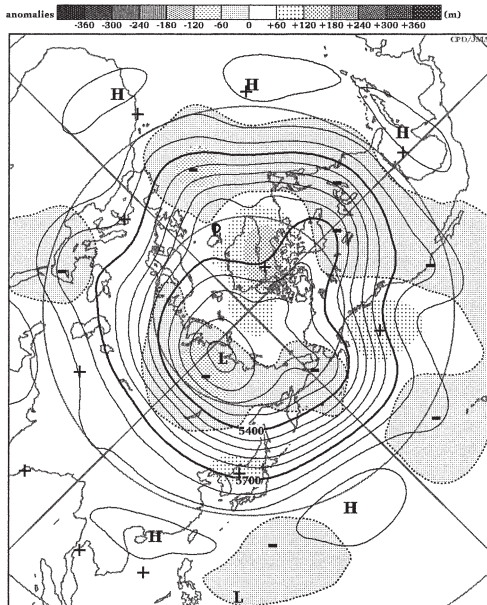
熱帯の対流活動は、インド洋東部から海洋大陸にかけて不活発で、西部太平洋とインド洋西部で活発だった。フィリピン東海上では、赤道季節内振動(MJO)の北進モードに対応し、9月下旬に引き続き月の前半は活発、後半は不活発となった。太平洋の熱帯収束帯域(ITCZ)でも平年より活発で、10月の太平洋東部での熱帯擾乱の発生は3個と平年の1.8個に比べ多かった。また南西諸島周辺で顕著な対流不活発域が見られた。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋東部から海洋大陸にかけての対流不活発域に対応してインド洋で赤道対称に高気圧性循環偏差が見られ、フィリピン東海上・西部太平洋では対流活発域に対応して低気圧性循環偏差が見られた。

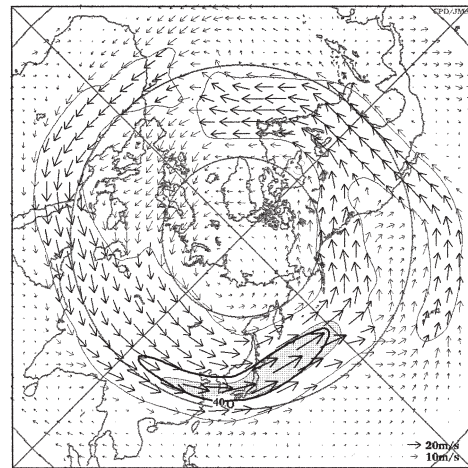
SOI(南方振動指数)は-1.2とマイナスとなり、5か月連続で負の値が続いている。

世界の天候

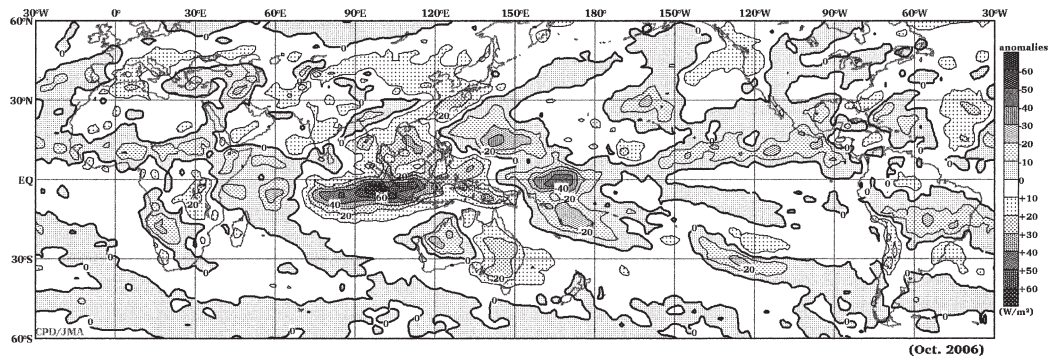
- ① 中央シベリア南部の多雨
- ② 東アジアから中東の高温
- ③ 中国東部から西日本の少雨
中国では干ばつにより1000万人以上が被害を受けていると伝えられた。
- ④ 中国南部からタイの多雨
ベトナムでは台風で60人以上の死者が報じられた。
- ⑤ インドネシアの少雨
インドネシア周辺では森林火災による煙害の被害が伝えられた。
- ⑥ ヨーロッパ北部の多雨
- ⑦ ヨーロッパからアフリカ西部の高温
- ⑧ トルコ周辺の多雨
トルコでは大雨で20人以上の死者が報じられた。
- ⑨ 北米北部の高温
- ⑩ 米国西部の低温
- ⑪ 米国東部の多雨
- ⑫ 中米の高温
- ⑬ 南米北東部の高温
- ⑭ オーストラリア北部の低温
- ⑮ オーストラリア南部の高温・少雨
オーストラリアでは深刻な干ばつ被害が伝えられた。
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 松田亜希子)



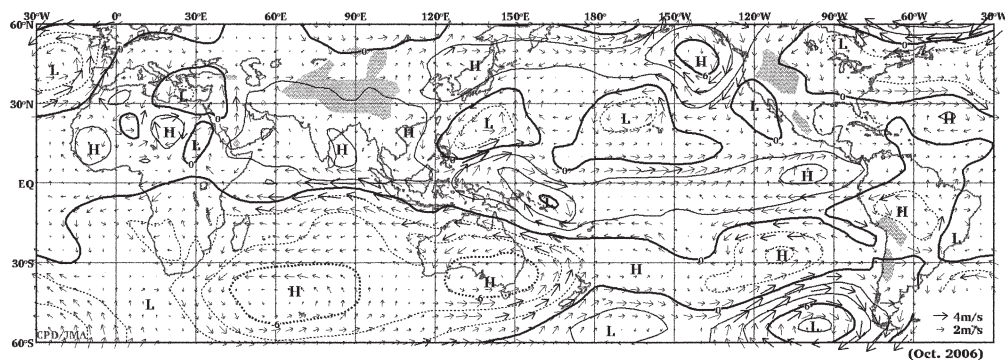
2006年10月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



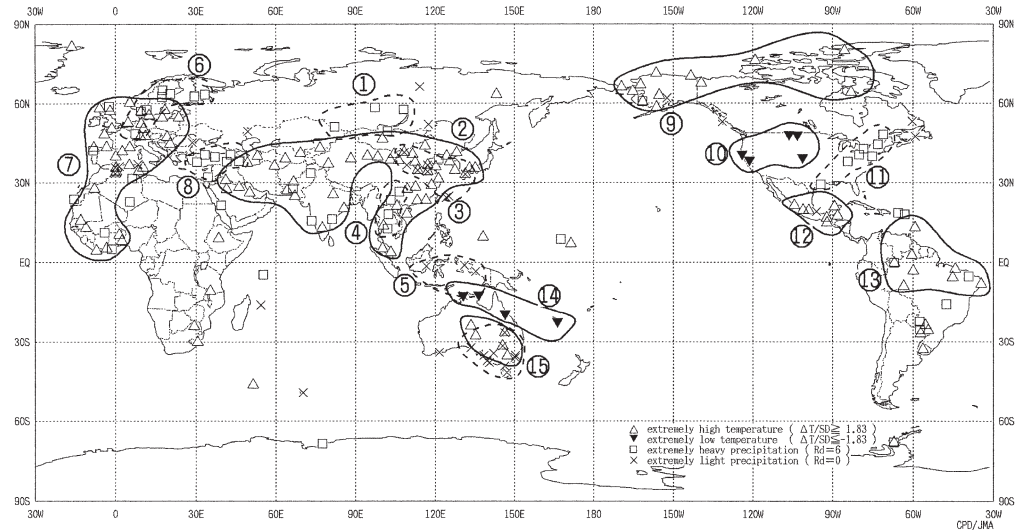
2006年10月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s. 陰影部は30 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年10月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA, 年偏差は1979~2000年のデータから作成。



2006年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2006年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している。